

第13期 社会教育委員の会議（第14回） 会議録

● 開催日時 令和4年11月25日（金） 午後2時～4時

● 会場 ウィメンズパル 学習室

● 出席者

社会教育委員 （8人）

| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 大島 英樹 | 野川 春夫 | 大畑 廣行 | 竹高 京子 |
| 工藤 宜 | 鈴木 弥生 | 風澤 明子 | 熊谷 晴弘 |

事務局職員 （3人）

| | |
|--------------------|-------|
| 生涯学習課学び支援係長 | 佐藤 吉裕 |
| 生涯学習課学び支援係（社会教育主事） | 与儀 睦美 |
| 生涯学習課学び支援係 | 黒澤 幸恵 |

オブザーバー （2人）

| | | |
|-------------|-------|----------|
| 生涯スポーツ課長 | 柿澤 幹夫 | |
| 生涯スポーツ課事業係長 | 張替 武雄 | 出席者 計13人 |

次第

1 議 事

- (1) 「記録と提言」の検討
- (2) 教育委員との懇談会について
- (3) 今後の会議の進行について
- (4) その他

【配付資料】

- 第13回会議録（案）
- 「記録と提言」（案）[資料1]
- 「記録と提言」の送付先（案）[資料2]
- 教育委員との懇談会関係資料[資料3]
- 第13期社会教育委員の会議スケジュール（案）[資料4]
- 関連事業チラシ（郷土と天文の博物館令和4年度企画展、わがまち楽習会チラシ）

— 開会 —

○事務局 皆さんこんにちは。ただいまから第14回社会教育委員の会議を始めます。

本日は皆さんご出席です。本日傍聴者はいらっしゃいません。

資料の説明をさせていただきます。

一番上に次第があるかと思えます。次に第13回の会議録の案が、ございますでしょうか。そちらが案でございますので、ご確認いただいて、12月2日金曜日までにご連絡をいただけますようお願いいたします。

次に資料1としまして、皆さんにご検討いただきました「記録と提言」の素案です。これに委員の皆さんのお名前や協議経過などを資料としてつけて冊子としますが、今回

は表紙のないものです。本日こちらをご検討いただければと思います。

資料2は、「記録と提言」の送付先の案です。

資料3は、次回の教育委員会委員との懇談会の次第案とメンバー表です。

資料4は、スケジュールの案でございます。

また、社会教育関連の事業のチラシを配付させていただいています。博物館の企画展などです。

以上の資料はございますか。

それでは、この後の議事進行は、大島議長にお願いいたします。

1 議 事

(1) 「記録と提言」の検討

○大島議長 皆さんこんにちは。今日とても暖かくて、先月から季節が進行していないような感覚です。「記録と提言」のほうは、大幅に進みまして、全ての方の変更が入った形で、全体像が見えてきたと思います。

今日は、一通り全部を皆さんと一緒に確認しながら進めていきたいと思っております。

頭から行きたいと思いますが、まずは表紙を御覧いただければと思います。タイトル等、こんな形で事務局がご提案くださったのですが、いかがでしょうか。

何か角度をつけたタイトルにするということもあるかもしれないですが、中を検討しながらアイデアが出てきたら、ということでもよろしいでしょうかね。そうしたら表紙は、この形で進めさせていただければと思います。

1枚めくっていただきまして、「はじめに」のところになりますけれども、こちらは野川先生がお書きいただいたものですので、お読みいただくのは……。

○事務局 音読しますか。

○野川副議長 お願いできますか。

○事務局 では、代読いたします。

はじめに。

令和元年6月6日、生涯学習課長より「『東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以後、オリ・パラと称す）』を契機とした文化の創造と継承について」を第12期のテーマとして提案された。オリパラ開催を契機に、新たに創造されるスポーツ振興、国際交流等を葛飾区の次世代にどのように継承するかについて協議することが委員会へのミッションとなった。

大島議長の丁寧なリーダーシップに加え、加納課長以下事務局の積極的な支援の下、本ミッションを精力的かつ多角的に協議を順調に進めていた。しかし令和2年5月以降はCOVID-19（以後、コロナ禍と称す）の影響により事態は一変し、会議が幾度となく中止になり、また肝心のオリ・パラが開催延期となるなど未曾有の状況のため、通常、任期末に提言あるいは答申形式の回答を今期は見送ることになった。本ミッションを遂行できないまま尻切れトンボの状態で任期を終えることは事務局を含め、本委員会にとっては忸怩たる思いであった。

令和3年4月23日に、教育長より第12期委員会の殆どの委員が第13期の委員として委嘱された。2022年から始まったコロナ禍が未収束の中、今回のパンデミックを契機として社会のありようも変化するため、「社会の急変を契機として、これからの生涯学習と生涯スポーツを考える」が第13期の本委員会のミッションとなった。しかしコロナ禍によって第2回の会議が半年経ってからの開催となり氣勢がやや削がれたともいえる。

第13期のテーマはある意味抽象的で茫洋としているが、将来予測を含め今後の生涯学習および生涯スポーツの方向性を協議することは有益である。司令塔の大島議長の提案で、足立区生涯学習センターと新小岩地域活動センター（複合施設「にこわ新小岩」）の現地視察を実行するなど、コロナ禍においても行動的な委員会活動を実施した。「にこわ新小岩」は、令和4年4月に加納課長の後を引き継いだ佐藤課長が担当していたので、コンセプトなどを含め貴重な見学の機会となった。

2年間はあっという間に過ぎつつある。2年目に入り社会教育関連5課のコロナ禍の3年間の事業計画・事業成果の総括を進めている。なお、今後10年間の葛飾区の教育計画作成に本会議から3名が出席しているので、本委員会における協議内容を新教育計画にも反映できる可能性がある。副議長野川春夫。

○大島議長 今お読みいただいた「はじめに」について、委員の皆様からご意見を願います。

○大畑委員 中段ぐらいの「2022年から始まったコロナ禍」というところの年号は22年でよろしいのですかね。2020年か。

○竹高委員 2020年ですよ。

それでいうと、令和なら令和、西暦なら西暦にそろえてしまったほうが、読んでいる方は分かりやすいかもしれないですね。どちらがいいでしょうか。

○大島議長 区役所は何かありますか。どちらがより好ましいとか。

○事務局 表紙にもあるように、こちらからこうしてほしいということはございません。これまでは、そのときの社会教育委員さんのご意向で、併記していることが多かったと

思います。「令和5（2023）年」という形です。

ただ、この「コロナ禍」は世界的なものなので、「令和」では違和感があるでしょうか。

○大畑委員 ここを2020年にするのか、令和2年とするのか。

○竹高委員 あるいは「前年から始まったコロナ禍」とするのか、どちらがいいのかね。

○野川副委員 どちらでも結構です。

○大島議長 統一的な原則があったほうがいいのかと思います。

○事務局 ここは「前年」でいいですか。それとも「令和2年」にしますか。

○大島議長 表紙のように、元号で後ろに西暦の数字を入れるというのを標準的な形として、西暦は要らないというところは抜いてしまうという運用はいかがですか。自分のところは全然元号を使ってなかったので、差し置いて言うのですけれども。

○事務局 では、全部統一して併記するというで。

○大島議長 そこはもう機械的な修正をお願いできたらと思います。

「はじめに」は非常に密度が高く、経過を野川先生にご説明いただいて、全体に何が書かれるのかというのが伝わると思います。

○竹高委員 併記したのを見ると、こってりしてしまうかなと。西暦は2020のオリンピック・パラリンピックのみにしたほうがスッキリして、文章がまとまる気はします。

○鈴木委員 カレンダーのほうは、それぞれ表記がバラバラになっています。「R」とかになっていますし。

○大島議長 そう見るといろいろですね。葛飾区は特に強制はないですか。

○事務局 区役所としては和暦でやっています。

○大島議長 そうしたら、和暦を書いて後ろに西暦を括弧の中に数字を入れるというのを原則にしていきたいと思いますか。

○事務局 一旦そういう形でまとめてみまして、またおかしければ変更するというで。

○大島議長 そのようによろしく願いいたします。

また、全体を通して見たときにまた戻って、お互い言及したところが見えてくるというのもあるかと思しますので。

○事務局 ご相談なのですけれども、今回、皆さんの原稿に全て括弧でお名前を入れたのですけれども、これまでの提言は記名は全くなしでした。こういう形ではよろしいかどうか、ご検討いただければと思います。

○竹高委員 名前はなくてもいいとは思いますが、会議を積み重ねた結果のまとめだと

思うので、皆さんのご意見でと思います。

○大島議長 ここでこうして読み合わせを経てご了解を頂ければ、共有したものという形でできますかね。お二方で課を担当されているところは、うまく並べ方というか、レイアウトなり何なりが必要かなと思いますけれども。

そうしたら、名前を取って全体でこの会議としての文章というふうにしましょう。

○大畑委員 「はじめに」と最後のまとめは、挨拶文になっていると思うので、議長、副委員長の名前を入れてもらったほうがいいと思います。

○大島議長 よろしいでしょうか。では、そのようにしましょう。

○竹高委員 「はじめに」の最後のところなのですけれども、「今後10年間の葛飾区の教育計画作成に本委員から3名が出席しているので、協議内容を新教育計画にも反映できる可能性がある」という文は、入ってほしいなどはありますが、載せてしまっているのか、いかがでしょうか。これができ上がったときには、新教育計画策定の委員がこれを読むことがあるのでしょうか。

○事務局 教育振興基本計画策定検討委員の全員にお渡しするつもりです。

○竹高委員 そうですか。では、入れていただきますよう。

○大島議長 よろしいですかね、こんな形で。

この先は課ごとに行ったほうがいいかと思しますので、まずは各課の記録、生涯学習課からになりますけれども、それに対する提言という形で、対になった形での意見交換をさせていただければと思います。

まずは生涯学習課のカレンダーや取組についてですけれども、全部を説明いただく時間はないと思うので、前回からの変更点をご紹介いただければと思います。

○事務局 生涯学習課のカレンダーは、「青少年対象事業」を加えました。青少年対象事業には、このほかにも幾つもあるのですけれども、その中の5つの事業をピックアップしました。「そうさく教室」と、「ストリートダンス」が途中で「HIPHOP」と名前が変わりますが、それと「子ども文化芸術教室」には2つありまして、身体表現のものと音楽のものと2つで、両方とも団体さんとの協働事業です。その4本を加えました。

それから、右上のところに枠を作って説明を書きました。黒枠の場合は中止した事業、グレーに見えるところが、人数を縮小したり延期になったり、形態を変えて何とか実施したものになります。ほかの課も、その形に統一しました。

○竹高委員 これはこのままの状態とほぼ変わらない感じの印刷になるわけですね。そうしたら「網かけ」より「グレー」としたほうが分かりやすいのではないのでしょうか。

○事務局 なるほど。そのように変更します。

文章のほうの変更した点は、ほかの課も同様ですが、「コロナ禍による影響」を加え

ました。

「事業が、実施会場である地域コミュニティ施設の閉館や制限による影響を大きく受け、団体やサークルの利用も減少し活動が停滞した。コロナ禍により、令和2・3年度は、講座等の事業の回数や参加者数、協働団体を含む実施団体の減少が顕著だった。」ということです。1つの例として、かつしか区民大学の講座を企画した数と実際に実施した講座数、それから参加人数ということで、数字を挙げました。令和元年度は企画した講座数と実施講座数がそれほど変わらないのですけれども、令和2年度、令和3年度はかなり実施講座数が減っているし、参加人数も減っていることが分かります。ここが変更した点です。

○大島議長 それに対してコメントを頂いたのが鈴木委員さんの文章になりますので、前回から変更された点を中心にご説明いただければと思います。

○鈴木委員 いろいろ手を入れていただいてとてもいいものに、短くよく分かるようになっていて、数字も出していただいて分かりやすくなっていると思います。全体的に変わっていますので。

○大島議長 評価と課題という、鈴木委員さんが書いてくださったほうの原稿の文章のほうはいかがですか。

○竹高委員 下線がひいてあるところは、その下線は取ったほうがいいですね。

○事務局 取ります。教育委員会に渡すときも取りますので、下線は今日までということ。

鈴木さんの文章は、最初の文章とはそんなに変わってない感じですかね。

○鈴木委員 変わっていません。

○事務局 鈴木委員のご希望でもっと変えたいということがあれば、これから変えても構わないので、よろしくお願いします。

○大島議長 委員の皆様からはいかがでしょうか。ご感想を。

○鈴木委員 質問なのですが、工夫した点のところ、「併用した」とか「開始した」とか、「実施した」というのは、表現が気になりました。

○大島議長 これは、皆さん、フォーマットは統一しても、それぞれの個性が出てくるのは非常に楽しいなと思っていますので。

では、次が郷土と天文の博物館になりますので、またカレンダーのほうから順番に説明をお願いします。

○事務局 カレンダーのほうは、大きくは変わっていませんが、閉館したのは何月何日から何月何日とはっきり分かるようにしました。

文章のほうはやはり、「コロナ禍による影響」を加えました。

「令和2・3年度は、入館者や事業参加者数の減少が顕著だった。また、令和2～4年度の博物館ボランティア活動を中止した。それに伴い、ボランティアが活躍する『博物館子どもまつり』と『秋まつり』も中止となった。」ということです。数字としては入館者数とプラネタリウム観覧者数、事業参加者数の数字を令和元年度、2年度、3年度ということで挙げています。事業参加者数が、令和2年度は物すごく減っていることが分かります。

○大島議長 物すごくよく分かる数字が出ています。

○事務局 博物館は博物館ボランティアの活動がまだ休止状態で戻っていないので、それが事業にも影響しています。博物館ボランティアとの協働でやってきた事業が幾つもありますので、その辺りが停滞していると聞いています。

○大畑委員 令和2年のときは博物館の改修もあったのですよね。

○事務局 そうなのです。閉館の理由が、コロナだけでなく改修が重なっているのです。常設展示室改修と、令和1年10月7日から改修工事があり、2階の常設展示室は閉鎖していることがあるのですけれども。

○鈴木委員 あまりにもすごい減り方なのだなと思って……。

○竹高委員 全部のカレンダーが一番上のメイン表記のところ、和暦を先にして西暦という形に変更するのですよね。

○事務局 そうですね。「R」ではなくて「令和」のほうがいいでしょうか。

○竹高委員 「令和」のほうがいいのではないかと思うのですけれども。ただ、カレンダーの中にも「R2」とか「R3」と入っているので、その部分はどうなのですかね。

○事務局 そうですね。ここはこれでよいですかね。

○大島議長 でも、例えば常設展示室のところは、書いても十分スペースあるのではないですかね。

○事務局 そうですね。できないことはないですね。

○大島議長 ほかはむしろ入ってないかと思うので。

○事務局 あとは何年度というのが幾つかありますが、全部「令和」に直しますか。

○大島議長 では、それに合わせて、評価と提言でお書きいただいた竹高委員さんのところで追記があればご説明いただければと思います。

○竹高委員 ほかの方に比べてボリュームが少ないのだなと、皆さんの文章を見て思いました。議長が、いろいろな個性が出ていて、いいのではないかとおっしゃっていたのですけれども、統一しなくても気にしないでいいでしょうか。

皆さんがその前にいろいろなことをお書きになったことを入れて書きました。特に、風澤先生が書いてくださったのをたくさん入れてこの文章を作ったので、私自身の意見

というのはむしろ入ってなくて、皆さんの思っているところをピックアップして、それをつないだという形です。

教育委員との懇談会でのご意見を頂いて、変更するなら変更することもあるかと思っております。

○大島議長 基本的には削ることはしなくてよいと思うので、各課でまとめていただいたところを踏まえて、ここにも反応しておきたかったな、というのが湧いてきたということがあれば、追記いただく、という考えのほうがいいのかもかもしれません。あるいは1個1個の事業ではなくて、もう少し総括的なコメントというのが湧いてきたようなときに、お気づきのタイミングで入れていただくというのがいいのではないのでしょうか。

○竹高委員 表を見落としていたところがあったので、そこを踏まえるところだったのだなというのが感じられるところがあるので、やはり載せておいたほうがいいのかと今、見て思ったので、その文章は再度作ってみたいと思います。

○大島議長 ありがとうございます。

では、続いて生涯スポーツ課ですね。こちらについてまた同様な進行でお願いします。

○生涯スポーツ課事業係長 カレンダーのほうを事務局より依頼があったとおり修正させていただきました。

事業名の上のところ、施設開館状況の一番左に「管理係」と書いてあるのですが、役割を書いて作ってもらった関係で、これは消し忘れなので、削除をお願いします。開館状況については、影響を受けたところをグレーにし、完全にお休みしたところを黒枠でという表現にして、前回より見やすく直させていただきました。

一番下、前回までは「その他の取組」ということで、その他の事業を載せていたのですが、野川先生から前回ご指摘を頂きまして、葛飾区としてオリパラの取組について記載をさせていただきました。そこが変更点になります。

説明文の「新たな取組や工夫」の(1)(2)(3)というところとカレンダーの星印の数字とがリンクしております。ごめんなさい、括弧が漏れているところもありますが。

○大島議長 ありがとうございます。星印とのリンクのどちらかに言及があるといいと思います。

○生涯スポーツ課事業係長 例えば「自宅でできる簡単ストレッチ」の矢印のところ、ごめんなさい、これも括弧が漏れていますね。星で「1」とあります。これも

「(1)」に直したいのですが、これが説明文のほうの「新たな取組」の「(1)動画作成・配信」というところですよ。

○工藤委員 そういう説明書きがあったほうがよいと思います。星は何何だよ、と。

○事務局 カレンダーのほうに説明があったほうが分かりやすいでしょうか。

○大島議長 そうですね。順番からいくとそんな感じでしょうかね。

○事務局 どこかにその星印の説明を入れましょう。

○大島議長 生涯スポーツ課の記録について、熊谷委員と工藤委員にお書きいただいていますので、まず熊谷委員のほうは、その後追記等ありましたか。

○熊谷委員 前回学校の行事で欠席させていただいた関係で、オリパラの関係が追加されたということに、資料を送っていただいた段階で気づきまして、自分の原稿でおオリパラに関して4、5行付け足しをしました。特に折り鶴のイベントについては学校も巻き込んでいただいて、子どもたちも実際折り鶴を折ったりしているので、そのことについても触れさせていただいたのと、最後の「今後の展望」について、部活動について触れるか触れないか、実はずっと迷っていました。どこからも報告がなかったことに対して触れるのはどうなのかな、と迷っていたのですが、区議会便りを読んでいたら、議会でどなたかが質問され、議会で答弁されていて、既に担当部署は検討に入っています、と答弁されているのを読んだので、では、ここで扱ってもいいのかなと思って、載せさせていただいたところです。

○大島議長 ありがとうございます。では、併せて工藤委員さん。

○工藤委員 私のほうは、いろいろ書いたのですが、特にどこを強調したいと言われたときに、やはり中学校の部活動のところ、これからのことを考えると重視したほうがいいのではないかと思います、そのようにしました。

○大島議長 ありがとうございます。そうするといかがでしょうか。生涯スポーツ課に対する評価と提言というところで、先ほどお二方からの記述を、書かれた委員さんのお名前を外すとなると、どういうふうにレイアウトしたらいいでしょうか。

○大畑委員 工藤さんと熊谷さんと並べると、主張するものが随分違っているようです。部活動の指導者に関するところも、視点が違う。

○大島議長 もともとその形でお書きいただいたところを、先ほど、全体のものとして共有することをして個人のお名前を取りましようとなりました。でもなかなか2つの頭で考えたものを1個に入れるというのは、かなり難しいのかなと思いますので、両方が並ぶ理由づけというか、形が設けられたらなと思うのです。

○鈴木委員 今までの提言には個人名が載っているものはあったのですか。

○事務局 コラムのような形で枠で囲んで載せたことが、一度あったかもしれませんが、こういう地の文で個人名はないです。

○工藤委員 名前を載せるよりは、委員会総体としての書きぶりに合わせたほうがよいと思います。そう考えると無理やり合わせるよりは「その1」、「その2」とするしか

ないかなと、個人的には思います。

○竹高委員 名前はないほうがいいし、「その1」、「その2」もスマートじゃないと思われる。

○事務局 工藤委員の表記はより具体的な提言になっていると思うので、具体策を箇条書きで、1、2、3、4というふうにしてもよいかと思います。

教育委員との懇談会には、(1)(2)と、このまま出しておいて。その後に議長のほうで全体を見ていただいて、どういうふうにまとめるかということで案を出していただいたらどうでしょうか。

○大島議長 この後、地域教育課のところでもお二方、同じこともあるので少し、すぐに答えを出すというよりは、もう少しきちんとお考えいただいたほうがいいかなと思います。12月に向けては急に合体という話にはなり得ないので、今日のところは今、出た形の中でのご意見を伺っておくのと、その後、一番はお書きいただいたご本人のところでご意向を聞けたらいいのかなと思います。

○竹高委員 難しいですけれども、やはり合体したほうがいいと思います。やはりそのほうがスムーズではないかと。それは地域教育課のほうもそうですし、ほかの結局5つの部署のところを書いている人間が1人か2人か明白に分かってしまう形というのは、社会教育委員皆さんで協議してきたこととは異なる形になってしまうのではないかなというのが、やはり残念ですかね。もっともっと個別だけのものではなくて、今まで皆さんが出した意見の履歴をたどったところで合体したものでない。

生涯スポーツ課は、ボリュームがあっていると思うのです。それこそオリパラのことでやっていたわけなので、このことでいうと4年間のまとめたものになるべきだと思うので、生涯スポーツ課にボリュームがあるのはいいことだと思うのですが、社会教育委員としてはこうである、ということをもとめないと、「提言」としてはいけないのではないかなと。

第11期で、私が図書館についての勉強をさせていただいたときには、それこそ本当に考え方が違う方がたくさんいたのですけれども、それを読み合わせながら、その場所だけをその人が担当するのではなくて、ミックスをしながら、最終的にはまとめたという形だったのですね。それがすごくスムーズかどうかは別なのですが、やはり皆さんで足並みをそろえて、これはこうであるという形のご意見を述べさせていただくべきなのではないかなと思います。

それでいうとボリュームが少ないのはちょっと底上げもしていかないといけないのかなと思うので、ご意見を頂けるととてもありがたいと思うのですが。

○生涯スポーツ課長 熊谷委員のところに工藤委員の文章を、ミックスさせるのではな

く、それぞれブロックで入れていければ、うまくできそうな気がします。

○野川副議長 学校運動部活動のことが生涯スポーツ課の中で話題というか、対象になるようなことはなかったと思います。ですから、生涯スポーツ課の範疇のところをもう1回まとめ直し、「今後の展望」ということで、学校の部活動は次に来る課題であるという扱いのほうがよいと思います。

学校運動部活動の部分があまり大きくなってしまうと、オリパラにはあまり触れられていないし、生涯スポーツ課が本来担当している地域スポーツクラブや、スポーツ推進委員などが少なくなります。本来、これらの領域を充実したほうがよいと思います。

学校運動部活動は多分このままでいくと、地域系運動クラブ、地域部活動という名前になりそうなので、学校教育からちょっと離れつつあります。これスポーツ庁はまだ決定していなくて、今パブリックコメントを求めている最中ですので、12月15日か16日ぐらいまではまだ決まっていないので、その部分をあまり掘り下げてしまうと、大変かなという感じがします。

○竹高委員 工藤さんのご意見は、どちらかという今後の展望というか課題になり得ることだと思うのですよね。評価ということではなく、こうしたほうがいいのかという提言に近いものだと思うので、提言のところに入れていくというのがどうなのですかね。

学校部活動については、そこをまた1つ違う今後の展望の部分で、1行空けるなり何なりした形の別枠にしては……。

この「生涯スポーツ課の評価と課題」の後ろに、前期の社会教育委員の思いも含めてという形に何か副題をつけて、この評価のところのボリュームをつけていくというのはいかがですかね。先にオリパラのことで、生涯スポーツに関しては皆さんと勉強したことなので、その部分はもうちょっと厚く入れるべきではないかなと感じるのですが。

ページ数が変わってしまうと大変ですか。

○事務局 現状でいっぱいなのですね。できればもう少し詰められればと思っていたところでは。

○竹高委員 それでいうと地域教育課の取組のところも、若干ここはまとめていくべきところだと思うので、あと1枚、その部分でやはりオリパラのことと生涯スポーツは入れていくべきなのではないかなと思うのですが、いかがでしょうか。

○大畑委員 それは生涯スポーツ課が入れるか、それとも委員のほうでその部分を足すか。

○竹高委員 やはりそこは委員が、ではないでしょうか。野川先生に若干足していただくとか。2期分の思いも込めてこれを書くのであれば、野川先生が出てきていただかな

いと困るのではないかなと。だから、「はじめに」がもっと長いかなと思っていたのですけれども。

○野川副議長 「はじめに」はプロローグなので、ジャブ程度で行ったほうがいいのではないかと。

○竹高委員 ですので、ここで評価なり何なりを書いたほうがよろしいのではないですかね。いかがでしょうか。

○熊谷委員 最初に頂いた課題として、各課から事業報告があつて、それを基に評価をと言われて書いたのです。その後、課題と提言というのは、その評価を受けて委員としてこれは課題だというのを書いた。最後に今後の展望として、委員として関わった部分で気になったことがあつたら書いていいですよ、と言われて書いたというのが正直なところなので、これを今の段階で2人分合わせるとするのは非常に厳しいものがあるのではないかなと。

申し訳ないけれども、そうするなら最初から言ってもらいたかったというのが正直なところです。一任はしますけれども、本当に議長から指示を頂いたとおりに書いてきたつもりではあるので、今の段階で大きく軌道修正されてしまうのは本意ではないと個人的には思います。

○竹高委員 そうであるとすると、熊谷先生はこの形のままで良いとお考えになりますか。

○熊谷委員 そういうふうには思っているわけではないのですけれども、ただ、ここへ来てそういう話が出てくるのは、「えっ？」というのは正直に感じているところだという意味で申し上げました。例えば、個人の名前が入ったまま載せるのはやはりよくないと思うし、ここの委員の総意として作るものであるので、やはり合わせたような形で柱立ての中にのっとして書いていくべきものかなとは思っています。

○野川副議長 ちょっとペンディングにしておいて、あとは議長、副議長とそれから事務局で相談をしながら、それで代替案があるのだったらそれをできるだけ早く提示して進めるという方向でいかがでしょうか。議長と私のほうで、ここをどうするかということに限って打合せをしたらいかがかと思えます。そうしないと、その時点ではすぐには決まりそうもないので。よろしいでしょうか、議長。

○竹高委員 熊谷委員の文章は本当にきっちりとするばらしい文章をお書きになってくださっているのですが、そこに対して合体するとか手をつけるというのは本意でないというのは本当にそのとおりで思うのですが、前回図書館についての提言をまとめた際にも、自分たちで分かれていろいろな文章を書いていったのですが、それに対して、議長、副議長に手を入れていただいて、きちんとした形に合体していただいたりということが

あったわけです。だから、やはりバランスとかそういうのを考えても、私はもう一任し
てお願いしたいなと思うのです。

皆さんの積み重ねてきたことがきちんと反映されていくべきだと思いますし、文章形
態もあまり違う言葉使いだったりすると、読み手の方にとっては違和感を覚えるとは思
います。

○熊谷委員 そこは異論ないですし、文末表現もきちんと体裁を整えていくべきだろう
と思います。先ほど生涯スポーツ課長が言っていたように、うまく組み込んでい
かれて流れを作れるものでしたら、それは一任して組み換えていただいて全然構わない
です。

○大島議長 ありがとうございます。工藤委員はいかがでしょう。

○工藤委員 同じです。お任せします。

○大島議長 一旦お預かりをして、改めて皆様にご納得いただけるような形で進めてい
けるようにしたいと思っています。ありがとうございます。

では、続いて中央図書館ですね。こちらまずは事務局からご説明を。

○事務局 17 ページのところに戻っていただきまして、図書館のカレンダーのほうは何
か所か直しています。ほかの課と同じように、延期になったり変更して実施したところ
はグレーにしてもらったりしました。

また、図書館開館の状況の上のほうのところ、グレーの矢印のところ、中央・立
石が「20 時閉館」とか、「イベント中止」とか「20 時まで」と書いてあるので、もと
もとの 2019 年の通常開館のところは平日は 9 時から 22 時だった、ということそこ
に加えてあります。「ビジネス支援セミナー」のところもごちゃごちゃしていたので分か
りやすくしました。

○竹高委員 「子ども読書の日イベント」の 2020 年 4 月から 5 月の欄で、「開催中
止」と黒でなっている上にグレーの矢印があるのですけれども、これはどういう意味で
すか。

○事務局 多分この矢印の期間が開催中止だったので、矢印が要らないと思います。

○竹高委員 でも真ん中の部分は「開催中止」で、1 イベントのみ開催になっていて、
3 つ目は「全体行事は中止」で、「規模を縮小して実施」になっているのです。

○事務局 こちらはグレーなのに、ですね。

○竹高委員 そうなのです。だから講演会は「中止」で、それ以外のものも変化があっ
てやったのなら、それはそれでその表記でいいと思うのですけれども。そうすると、1
番目が「開催中止」で、ほかは何も書いてないので、下に。これでいうと、形態を変え
て実施したならばグレーで、下に入れるなら入れる。入れないなら全く入れない。

○事務局 これは実際どうだったか、内容を聞いてみます。もう一度確認します。

ここは第一波の緊急事態宣言中なので、全く中止してしまったのではと思います。

○竹高委員 ほとんどは「中止」だったと思います。

○事務局 ということはグレーではなくて、黒枠の「中止」ではないかと。

○竹高委員 ここはもう矢印を取ってしまっていると思うのです。

○事務局 そうだと思われます。修正します。

文章のほうは、20ページの「コロナ禍による影響」というところが加わっていて、令和元年度来館者数ですとか、詳しく図書・雑誌の貸出冊数の変化を加えて書いてあります。ここが加わったところになります。

○鈴木委員 すみません、これは中央図書館だけの人数ですか。

○事務局 これは全館です。葛飾区の図書館は中央館が金町にあるのですけれども、そこが図書館全館を管轄している形になっています。この表記は「中央図書館」でないほうが分かりやすいですかね。「図書館」だけにしましょうか。

○鈴木委員 そのほうが分かりやすいですね。これだけ中央図書館に来たらすごいなと思ってしまいました。

○事務局 「中央図書館」を「図書館」にしますか。そうすると竹高委員のところも「図書館」にします。

○大島議長 35ページですね。

○竹高委員 でも、中央だけの文章はなっていないと思われます。「葛飾区立図書館全館」とか「図書館」というように。

○事務局 ここだけ、「評価と課題」も抜けていました。すみません、漏れていました。

○大島議長 それでは、今の35、36ページについて竹高委員のほうから説明をお願いしますか。

○竹高委員 前回書いたところと変わっているところが、カレンダーの中には入っていたのですが、職員が保健所へのワクチン接種の応援対応で動かされたため休館した部分を入れさせていただきました。専門性を持っている図書館職員がこういう状況になったからといって、保健所対応をするべきだったのかどうか、というところを入れさせていただきました。

これは博物館も同じなのですけれども、なかなか文章が難しいですが、ここももう少しプラスアルファしていくべきなのかなとも思っています。

○大島議長 ありがとうございます。いかがでしょうか。今、竹高委員さんがおっしゃったコロナ関係の応援は、異動というのではないですね、臨時で出向するような、そういうことは社会教育行政の周りでもあったのですか。

○事務局 そうですね。生涯学習課も、一番初期のときに結構たくさんの方を出しました。

○竹高委員 地域教育課からも「わくチャレ」の担当の方で応援対応があったのですが、それこそ専門性を持っている方まで借り出すのは、コロナ禍の中でもどうなのかなという疑問があったので、そこを入れました。

これで終わりではないし、またこういう形が出たときに、葛飾区の行政的なところでどうあるべきなのかな、というところを1つ考えていただけたらいいのかなと思います。例えば、リタイアなさった保健師さんとかでベースを固めるようなシステムを作るとか。それはここには書けないのですが、そういう形もあるのではないかなと感じたので。

○大島議長 ありがとうございます。「不要不急」という言葉が使われたときに、優先順位の表され方が、非常に鮮やかに見えたと思うのです。そこに真っ向からそれは違うぞという批判を書いているわけではないのですが、社会教育行政というものがどういうふうに置かれてきたかということがすごく伝わる切実な記述なのかなと思います。

○竹高委員 早く人を動かすためには、例えば図書館や博物館が休止していたら、その部分の職員を充てるというのはもちろん分からないわけではないのですが、そのために全館閉鎖する必要もないと思います。そこをよりどころにしている方も、対応を望んだ方もいらっしゃるかもしれないので、博物館も図書館も、できれば閉館はしないほうがいいとは思いますが。ある程度の縮小は仕方なかったかもしれませんが、専門性を伸ばしていただきたいなという気持ちはあります。

○事務局 このところは、今区役所全体で、フェーズに対応して保健所への応援をどのくらい出すという基準ができていて、全体で通常の事業とか仕事はやりつつ、応援するというのを基準に沿ってやっています。このカレンダーの、博物館だと9ページ、図書館だと17ページ、令和4年の2月に、2月7日から2月28日に同じ日付で、図書館と博物館だけが閉館して職員を供出したということが記録されています。そのところを竹高委員がおっしゃっています。事業を開催しつつ少しずついろいろな課から出すというガイドラインとは別なところで、教育委員会として、図書館と博物館を閉じて人を出したという特別な形になりました。

○大畑委員 それは、例えば細かいガイドラインが今ははっきり決まっているけれども、その閉鎖したときには決まっていなかったということなのですか。

○事務局 いいえ、その時もガイドラインはあったのですが、特別に教育委員会として、図書館と博物館を閉館して保健所を応援することになりました。区全体のガイドライン

とは別です。

○竹高委員 博物館と図書館と両方の館が閉まったというのは分かっていたのですが、両方に同じ文章を入れてもどうなのだろうと思って後の図書館のほうで書いたのですが、同じような文章を博物館のほうにも書いてはおかしいでしょうか。

○大畑委員 おかしくないのではないかな。こことここが閉まっていたと。これが事実だから。

○工藤委員 両方に書いてよいと思う。

○竹高委員 分かりました。加筆させていただきます。

○大島議長 ありがとうございます。いかがでしょうか。図書館のところに関して。

○大畑委員 36 ページ、最後の線引いたところの上の文章で、「ならい」になってしまっている。「な」が抜けている。

○事務局 すみません。

○大島議長 ありがとうございます。では、その他よろしいでしょうか。

それでは続いて、地域教育課の記録です。

○事務局 地域教育課については、ほかの課は5事業なのですが、6事業のままになっております。枠だとかそういうところをはっきりして見やすくしたというところぐらいで、カレンダーのほうは大きく変わっていません。

文章のほうは「コロナ禍における影響」のところに加わってしまっていて、ジュニアリーダー講習会がどうなったか、子どもまつりやわくわくチャレンジ広場もかなり影響を受けているということで、この大きく3つの事業の影響について書き加えられました。

○大島議長 ありがとうございます。では、それに対する評価と課題、提言ということで、大畑委員さんと風澤委員さん、お二方にお書きいただいていますので、まずはこの提言をお書きいただいたところで追記等があったところを教えていただければと思います。

○大畑委員 特に内容的に加えたつもりはないのですが、前の文章の区切りがバラバラだったので、評価、それから課題と提言に分けて書き直してみました。評価のほうは、通常の事業の内容の中で感じている部分を書き入れて表現させてもらいました。その中で1つわくチャレについては、サポーターが不足していく中でどういう対応をしていくのか、提言っぽく評価の中に入れてしまいました。

課題と提言では、地域教育課は大きい団体を抱えていて、大きい団体の活動の支援がメインになっていて、本来それが仕事なのかどうか私には分からないのですが、地域の教育力とか家庭教育の向上とか、そういった部分には力が入ってないのかな、ということで書き入れてみました。

青少年委員会では毎月勉強会をやっているのですね。各地区に、地区委員会の受入れでいけば大体3人から4人はいるメンバーなのですから、そういう人たちにいろいろな情報提供や教育をしていただければ、地域に広がる内容がどんどん増えていくのではないかと。大きい団体に関わっただけをやっていると、年中行事、行事の繰り返しで、何か進歩がないのかなど。大きな意味で地域の教育力、教育向上ということを目指してやっていただきたいということを、課題と提言の中に書き入れたつもりです。

○大島議長 ありがとうございます。では、風澤委員。

○風澤委員 このまとめについては、前回を受けて評価と、それから課題と提言とこの2つに分けてというメールを頂きましたので、私のほうは、特に今後の展望を付け加えておりませんで、この2点で書かせていただきました。

あと、地域教育課だけではないと思いますが、各事業に触れてカレンダーのこの資料を基にして、全てに触れられるようにと思ひまして、このように書き出してみました。ただ、皆さんの書きぶりとは異質な感じであれば、書き方を変えることも考えたいと思っています。これは、カレンダーの項目の順番に書かせていただきました。

それから課題と提言については、その評価を受けてその中で特徴的なもの、数を絞って言及すると伺っておりましたので、私はジュニアリーダー講習会についてと、あと学校としてとても身近に感じております放課後子ども事業の2点を取り上げて書かせていただきました。特に、ジュニアリーダー講習会が今後継続されていくのであれば、やはりその役割や、それを継続していく意義を区民の方や、そこに参加する方々がもっと理解し、積極的な役割を果たしていけるといいなと思ひ、下線を引いた次第です。

○大島議長 ありがとうございます。こちら先ほど生涯スポーツ課の部分の記述と同じように考えた場合に、改めて再構成して提案をさせていただければと思ひます。お二方は非常にボリュームがありますし。そういう意味で12月のときにはある程度完成に近い段階のものの方がいいのですかね。

○事務局 字句の修正の範囲で、12月9日はこのままでいきまして、よろしければ、12月9日の教育委員と懇談の後30分、社会教育委員の皆さんで協議していただく時間があるので、そこで案が提示できれば一番いいのかなと思ひます。

○大島議長 そういう2本立てで準備ができればと思ひます。ありがとうございます。では地域教育課に関する部分、記録、それから評価と課題、提言のところですが、委員の皆さんからご意見いかがでしょうか。

○大畑委員 自分で書いておいておかしいのですけれども、地域教育課の件で、事業と直接関係ないところで、課題という中に気持ちを入れすぎてしまっているのですけれども、そこは表現しない方がいいのでしょうか。

○竹高委員 青少年委員会の活動ですか。

○大畑委員 地域教育課の仕事に関してです。

表の中に青少年が載ってこないのですよ。青少年育成地区委員会についても、研修会に特化してしまっていますものね。

○竹高委員 「20歳のつどい」が青少年委員の事業という……。

○大畑委員 そういうふうになっていますけれども、各小中学校1人ずつ必ず青少年委員がいるので、やっぱりその中で学校と協力して、いろいろなことを子どもたちのためにやっていくのも含めて、地区委員会に属して動いてらっしゃるので、もうちょっとその力を発揮できる場所があるといいのかなというのはいつも思っています。ただ、月に1回勉強会をしていますが、青少年委員さんにも負荷がかかってくるというのも感じるので、どうあってほしいのかとか、区の考え方をきちんともっとよくしていただきたいと思います。

地域教育課が所管する団体がありますが、地域教育課がどういう形で団体を管理しているのかがよく見えないのです。地区委員会は独自の活動をずっと続けてきていて、その事業の手伝い、物を運んでくれたりとか、そういった点では全然問題なくやってもらっているのですけれども。ただ、より広く区全体のことが分かるのは青少年委員とか、そういう勉強してきた人なのですね。そういう人たちが地域の中で力を発揮してもらえる情報をどんどん出してもらいたい。それには地域教育課のほうで、そういうものの伝達の仕方をしてもらえばいいのですが、「やりたいことをやりなさい」という言い方でやってはいるのだけれども、結局それが自分たちの団体の中だけで満足してしまっていて、地域に反映させる検討事項に入っていないのですよね。以前は、職員もいろいろな勉強をしてきて、その勉強の結果を報告してくれるということがあったのですけれども、それが最近なくなっている。

だからどうしても地区委員会をやっていて一番思うのは、「年中行事」という言い方はおかしいのですけれども、年間決まっている行事、これを進めていくだけになってしまっています。そういうことをやっっているが、「地域の教育力」とか「家庭教育の向上」というものを常にうたわれるのです。地域の教育の向上は何を目指してやればいいのか、どういうふうにしたらいいのか、そういう基盤になるものを持ってもらえないと、地域教育課の活動する場所として、どういうことを目指して活動しているのか。ただ予算を取ってくるだけの場ではしようがないのではないかなという気はするのですよね。

○風澤委員 青少年委員さんが研修されていますが、学校には研修後、資料を持って報告に来てくださるのですよね。例えば、最近ジュニアリーダーのこと、現状と課題についてこういう勉強をしてきました、と。その前はヤングケアラーのことを、こういう勉

強をしてきましたと、資料で説明もしてくださるのです。学校としてはもちろんヤングケアラーの問題や、ジュニアリーダーについては、私は改めて伺って、このお仕事と関わってなるほどと思うことがありました。学校と青少年委員さんはそういうやり取りがあります。それも青少年委員さんによって違うのかもしれませんが。

もう一方は、やはり学校だけでなく、今おっしゃったように、例えば地区委員会に参加されているのであれば、地区委員会の中で地域にそういう情報を提供する役目もあっていいのかなと思いました。そうすると青少年委員さんの役割として、こんなところで地域の教育力を高めるために、また学校と連携しながらするためにこんな形がありますよと、その辺りの方向性を示していただくような場があるといいなと思いました。

○大畑委員 それを続けていくのには、例えば会長会で、行政から区の姿勢や、いろいろな部分で伝えたいものをどんどん提供しながら、我々が聞いて、それをみんなに伝えるぞと。一生懸命勉強した人たちがその会の中で、いろいろな部会の中で話したり、にじみ出てくる知識というのか、そういったものがないと、地域の中でなかなか新しいものに取り組んでいく力とか、そういう地域の教育力改善には結びつかないような気がするのです。ぜひそういったところに力を入れて、地域教育課として活動の視点を、行処理ではなくて、地域を盛り上げるための活動に切り替えてもらいたいというのが希望です。

○大島議長 今のような展望というところは、皆さんのご経験を踏まえて出てくるものだから、記録に言及されている等に限らず、そこに載せて書かれていいのだと思うのです。さっきのプラスアルファにできてしまっていていいかという話はまさに、だからこそ皆さんお書きくださっているわけで。

○大畑委員 そういう形で展望ということでお願いできれば、ぜひ、提言していきたいとなと。言う場所があるようでないのですよね。課長に直接話したりしても、忙しいとか青少年委員会にやらせますからという形になってしまうと、もうその先が言えないのですよね。

○竹高委員 今、大畑委員がおっしゃったことは大事なことなので、今後の展望として、しっかり書いていただくといいのではないかと思います。

○事務局 むしろ、もう少し膨らませて書いていただいてもいいと思うのです。職員の姿勢にもつながりますし、とても重要なご指摘だと思います。

○竹高委員 青少年委員の体質が、生涯学習課から地域教育課に分かれた時点からもう随分変わってしまったのですよ。あのときもめたのです。青少年委員の方も、そこで一斉に辞められた方が多いですし、熱い思いを持っていた方がほとんど辞めてしまったり。残された人はその思いを引き継いでいなかったり。

○大畑委員 分かれて3年ぐらいは、まだ生涯学習とのつながりもあり、知識とかを取り入れるチャンスがいろいろあったのですよ。徐々にそれが変わって行って、今度は青少年委員さんが準公務員ということで役所の仕事を手伝わされた。手伝って当たり前。

それから、ほかの事業でも青少年委員は声かけられて手伝いに行って、いろいろとやっているのですよ。それはそれでいいのですけれども、本末転倒にならないように、本来の勉強をやってもらうことを外してしまうと何か違ってしまうな、と思います。というのは、最近ますますそれが強く感じるのです。最近、青少年委員さんと話をして、新しい知識を感じることはあまりないです。

○竹高委員 本来は地域の青少年のために動いていただく組織なので。

○大島議長 今のお話を踏まえて、お示しできるようにしたいです。

どんどんいろいろな思いが共有されてくる大事な時間なのですからけれども、与えられた時間が限られていますので、最後の「今後の展望」というところに進んでもよろしいでしょうか。では、こちらも本人は読めるのですけれども、第三者として書いた文字を聞いてみたいと思うので、代読をお願いしてもよろしいでしょうか。

○事務局 代読いたします。

今後の展望。紆余曲折の末に。

「はじめに」において野川副議長が示してくれたとおりに、コロナ禍とそれに伴うオリ・パラの延期によって、本会議は進むべき道を失いかけていた。それでもなんとかねばり強く会議を開き、意見交換を重ねて見てきたものは、困難な状況下でも続けられてきた葛飾区の社会教育行政のたゆまぬ努力であり、その過程の見届け人としての社会教育委員一人ひとりのリスペクトの気持ちであった。これらの実況中継として、この「記録と提言」がある。

前半は、葛飾区の社会教育行政を担う5つの部署（生涯学習課、生涯スポーツ課、地域教育課、中央図書館、郷土と天文の博物館）の2019年度から2022年度にかけての事業の記録と取組の解説である。まず、各部署の主要な事業の開催状況、とりわけ中止や延期そして代替の状況を、当時の社会状況と照らして把握できるようにカレンダー形式でまとめた。そのうえでコロナ禍を契機とした新たな取組や工夫を解説している。同一の記録様式を用いることで、比較も容易になり部署ごとの特徴も明らかになった。

後半は、会議における上記各部署の報告と質疑をふまえた、各社会教育委員による評価と課題および提言である。従来、葛飾区の社会教育委員の会議では、2年を単位とする1期ごとに協議テーマを設定して、期末に答申や提言という形でまとめてきた。しかし、完結することなく終了した前期（12期）と、抽象的ともいえる今期（13期）に必要なのは、「その時なにをしていたか」という記録であると判断し、このようなまとめ

の形となったのである。

提言 新しい学びの「芽」。

さいごに、各委員から示された今後の葛飾区の社会教育行政の取組に対する提言を抜き出して列挙してみたい。

高齢層の参加者のみならず、今後を牽引していくヤングアダルト世代の人々が区の事業や講座、イベント等に興味を持ってもらうためのCMが必要であり、また新しい取組として始めた“note”や“You Tube”を利用、従来の「広報かつしか」や各所設置の案内資料もあわせ、大いにそれらを利用し、皆の区税で素敵な講座を開催していることを多くの人に知ってもらえるようなアピールの仕法が課題になるかと思う。

この数年努力していただいたように、アイデアを絞りできることを探し、専門性をフルに生かして、前向きに区民のために自身のために頑張っていたきたい。

無駄なこと、非効率的なことを省き、人と人がつながりをもちながら、スポーツを続けられる姿を考え、新たな方向性を見出していく必要があると思われる。（中略）従前に戻すことがよいことではなく、この2年間の中での社会の変容、人の意識の変化を踏まえた上で、人が一生涯続けられるスポーツの在り方や取組を考えていくことが重要ではないか。

中学校部活動の地域移行もあるので、総合的に組み立ての準備期間が必要（特に中学校校長・体育担当とのコミュニケーション）。東京都の方針、予算が確定しないと動けない、ではなく、今から想定されるたくさんの課題を調査し、対応策を積み重ね、整理・プレゼンするだけでも、あっという間に5年が経つと思いますので、準備に怠りなきようお願いしたい。

葛飾区の図書館がこのような状況になっても、それを乗り越えて区民と寄り添い、何十年も愛されていく図書館であってほしい。生まれてきて初めて本を手にして、老いて最後の本を置く時まで、大切な場所として存在してほしい。

地域教育課のこれからの取組で是非とも進めていただきたいと思うことは、行事の取組で、地位の教育力や家庭教育の向上を目指した事業になっていくように、各団体に新しい情報や検討テーマを広め、意見交換を盛り上げていただきたい。（中略）地域教育課においては、行事の準備補佐に留まらず、PTA・青少年育成地区委員会・子ども会等の、地域活動の活性化を行い、教育力の向上につなげて欲しい。

次代を担う子供の育成は、学校・地域・保護者の連携と協働によって実現する。この連携・協働は、地域教育課事業が大きな役割を担っている。実施に際しては、各地域の実態把握と関係づくり、支援に一層ご尽力いただきたい。地域と学校、子どもと地域を

つなぐ事業として、地域教育課事業の今後の益々の充実・発展を期待する。

これらは、コロナ禍において学校教育とともに追求されてきた「学びを止めない」という目標を越えていくものといえるだろう。

新しい取組も、それが日常に定着するにしたがって、あたりまえのものに変化してゆく。この記録が後年、それらの新しい学びの「芽」が、いつ・どのように生まれたのかを示す、証人となってくれることを願う。

議長 大島英樹。

以上です。

○大島議長 ありがとうございます。皆様の言葉を借りまくっただけですので、皆さんから何かご意見等あれば。今日これまでにご議論いただいたところを踏まえると、直さなければならないところがいっぱいかなとも思いますし、肝心なことが抜けているということもあろうかと思うので、ご指摘を頂ければと思います。

○竹高委員 「(中略)」は取ってしまったほうがいいのではないですか。そのほうが、文章のつながりがスムーズだと思います。

○大島議長 まず、頂いたものを生の形で書いてみました。前の部分ともう一度統合したりという部分もありますし、それを踏まえて「はじめに」「おわりに」の部分はまた変わる必要があるところもあると思うので、12月の第2ラウンドのところで新バージョンをお示ししたいと思います。

併せて、今日検討する中で、それぞれ皆様にご確認いただいたところも追記、修正等があれば、ご指摘を頂ければと思います。

こちらの進行の中で、今日に限らずですけれども、揺れが大きく、委員の皆様には余計にご負担をおかけしてしまったところです。

読み合わせの1回目というところを区切りにさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。ありがとうございました。

(2) 教育委員との懇談会について

○大島議長 そうしたら、議事の(2)、(3)、(4)というところ、まとめて事務局のほうからご説明いただいてよろしいでしょうか。

○事務局 ご案内のとおり、次回12月9日、教育委員との懇談会を開催します。おおむね2年に1回行っているもので、提言が出来上がる中間報告のあたりで行っております。この時に、社会教育委員として教育委員にご意見等があれば、お話できる機会としていただければと思います。

進め方は資料3に「次第（案）」という形で出させていただいております。いかがでしょうか。裏面はメンバー表になっております。

○大島議長 ご質問等よろしいでしょうか。いつもと時間が30分違う。1時半からです。

○事務局 はい、早めをお願いしたいと思います。

○大島議長 よろしくお願いいたします。

○大畑委員 終了時間は決まっていますか。

○事務局 1時半から3時までが懇談会です。3時から3時30分が社会教育委員の皆様には残っていただいて、今日の続きをとということはいかがでしょう。

○大島議長 よろしくお願いいたします。

（3）今後の会議の進行について

○大島議長 続けて、3つ目の「今後の会議の進行について」。

○事務局 今後のスケジュールについては、前回も申しあげましたが、最後の2月17日は流動的で、この日に開催するかどうかということも含めて、正副議長とご相談して、皆様にご案内できればと思っております。

○大島議長 ありがとうございます。日程が不透明で申し訳ありませんけれども、ご案内できるようにしたいと思います。

（4）その他

○大島議長 では、最後4番目「その他」ですけれども、委員の皆様、それから事務局のほうから何かございますか。

○大島議長 では、特になければ、以上で議事が全て終了となります。

本日はどうもありがとうございました。

— 閉会 —